

子ども
最優先

せたがや

区議会・区政
報告レポート
11年7月号



世田谷区議会議員

風間 ゆたか

[発行・ご連絡先] 風間ゆたか事務所

世田谷区下馬3-24-19 TEL:080-5466-0024

e-mail: kazama@kazamayutaka.com

HP: <http://kazamayutaka.com/> twitter: setagaya_k

どうなっている？

世田谷区の放射性物質対策

連日、区民の皆様から、放射性物質に関する問合せや依頼を頂いています。幼い子どもを育てる当事者としても、子ども達の被爆防止策に積極的に取り組む必要があると考え、区に対策を要求してきました。

■世田谷区の放射能測定の実施について

ガイガーカウンターよりも性能が良い測定機器を購入し、区で独自に測定調査をしていくこととなりましたが、在庫不足で調達に時間がかかっています。区では以下の独自調査を予定しています。

- ◎ 区役所周辺および、区立小中学校などの区有施設における地表調査
- ◎ プールの水質調査：区内5地域にて1校ずつ採取し、外部分析機関に調査委託。

公園の砂場などでの調査依頼もたくさん頂いていますが、まだ実施決定には至っていません。風間は今期初の区議会定例会代表質問にて、区にこの点も要求しました。今後、実施内容詳細の情報が入り次第、風間のブログやツイッター等で報告していきます。

■給食食材の産地については？

長野県松本市がいち早く取組んだ、給食食材産地の制限について、世田谷区では各小中学校・保育園ごとに仕入れられている状況ですが、区としては出荷制限されていない物は安全という前提でした。連日寄せられる保護者からの要望は、産地情報の開示と微量であっても放射性物質が含まれている恐れのある食材を使用しないことです。

風間は区議会定例会代表質問にて、この2点を要求し、まずは以下が実現となりました。

小中学校の給食食材産地については、学校長へ問合せがあった場合に開示するとのことです。

茨城県鹿嶋市でも地元茨城産の食材を給食で使用しないこととなりましたが、世田谷では一部茨城産食材を使用している事例があります。風評被害を助長するつもりはありませんが、子どもの内部被爆リスクを最小限にとどめる為にも、給食食材の産地制限は必要と考え、引き続き要求していきます。

風間ゆたかプロフィール

今春、世田谷区議会議員選挙にて6116票を頂き、再選。現在、世田谷民主党 幹事長、文教常任委員会副委員長、議会運営委員会理事を担当。

早稲田大学本庄高等学院&早稲田大学政治経済学部政治学科卒。職歴はベネッセコーポレーション社員、ウィルシード取締役、早稲田大学大学院非常勤講師、日本サッカー協会や小中高校、行政や企業等の研修講師など。

(NPO)国際ボランティア学生協会理事として、大学生の為の社会貢献講座を主宰。学生インターンを随時受け入れ、後輩の育成に注力。

家族はウェブマーケティング業に従事する妻と2男1女の保育園児。

世田谷区政は変わるのか？

世田谷区議会定例会はじまる。

4月の選挙後初の世田谷区議会定例会が開会し、初日は150人の傍聴席が満席となりました。

冒頭の保坂区長による召集挨拶は、これまでの役人作成原稿の棒読みではなく、自身で作成したとてもわかりやすく熱の入ったメッセージでした。

これに対して、最初に代表質問を行った自民党は「**区長退職金を廃止する**とはいかがなものか?」「**区長が何に力を入れていくのかよくわからない**」等、なにかと敵対的なスタンス。

一方、次に質問を行った公明党は、これまでの自民党と同じスタンス、という印象とは異なり、議場内がどよめくほど、友好的な態度での質問でした。

続いて行われた、共産党、みんなの党・世田谷行革110番の代表質問では、区政改善に取り組む姿勢を見せた区長答弁と、従来どおりの役人答弁の矛盾が指摘されました。区政を改善しようと取り組む区長と保守的な役人の差が明らかになりました。

さて、我々民主党ですが、2日目に風間が代表質問を以下の項目で行いました。

- ・ 被災地支援、災害対策、放射性物質対策を
- ・ 区民参加、NPOや市民活動の育成・支援を
- ・ 財政再建の為に土木・開発事業の抑制を
- ・ 子どもの内部被爆ゼロに向けた取り組みを
- ・ 保育園待機児童解消にむけたさらなる取り組みを
- ・ 学校のいじめと指導力不足教員の問題解決を
- ・ 学校での転落防止や不審者侵入対策の強化を
- ・ 高齢者が安心してくらせる取り組みについて
- ・ エネルギーシフトとスマートシティ世田谷を

議会ホームページでは、詳細な質問と答弁の様子を映像でご覧頂けます。是非ご覧ください！